

講座「ボランティアとは 求める価値と役割」



8月3日、ボランティア・地域づくりコーディネーター力講座第2回「ボランティアとは 求める価値と役割」を開催し、70人近くが受講しました。講師は龍谷大学教授の筒井のり子さんです。

受講生レポート

地域に暮らす高齢者から「一人だと雪かきできないよ」「ゴミ出し大変」「昔みたい居場所がないよ」「困ったなあ」と、声が届きます。地域包括支援センターは地域の高齢者の相談窓口です。介護保険が大きな転換期を迎え、インフォーマルサービス（*）の充実や地域力が期待される

中「ボランティアって？」この言葉の意味をもう一度確かめたくて受講しました。グループの意見交換では「ボランティアが集まらなくてね」という悩みも聞かれました。

筒井先生の講演で一番印象に残ったのは「ボランティアは、相手の求めやニーズに気づき、知ろうとすること」「共感によって、多様な人、行政・企業・NPOなどの組織がつながっていける。枠を超えての地域づくりになる」ということ。

ボランティアが自発的に力を発揮したくなる土壌って、支え合いや助け合いが根付いている地域にあるのかなと思いました。

私たちもボランティアや地域づくりに携わる皆さんと、小さな声も他人事にせず、力を合わせ汗を流して、地域のために頑張りたいと思います。（長野市地域包括支援センター コンフォートにしつるが 霜鳥敦子）

*地域のたすけあい、ボランティアなど、介護保険制度サービス以外の支援

参加アンケートより

●ボランティアは「自発性」がとても大切だとわかりました。「やる気・世直し・手弁当」はとても語呂がよいので印象に残りました。

●ボランティアとは誰かが参加するから自分ではなく、自分のやる気、呼ばれている気がする等の自発性が大切ということがわかった。

●ボランティアに対するイメージが変わりました。ちよつとしたきっかけでボランティアに繋がるのだと思いました。

●ボランティアの本質について考えさせられました。とは言えども、ボランティアの定義づけ線引きは難しいと感じました。特に有償・無償の分け方は難しいと思いました。

●ボランティアとは、専門性ではなく様々な経験を通して生かされるものだと思います。強制ではなく自発的な活動。それぞれが様々な活動をすることで豊かな社会になる。自分もいつかは困るだろうと思う。当事者を増やしていく事で世の中が変わるだろうと思いました。

●自発性を励ますのは自発性。ボランティアの意義は当事者を増やしていく↓「私は関係ない」ではなく、自分もその問題に関係しているという意識が大切。大切なキーワードをいただいたように思います。

●ボランティアとは何か理解できた。小さなニーズも「私もその問題」とつながっていると色々な面で感じていました。当事者として何か活動していけたらと思っています。



「これってボランティア？」
それぞれのボランティア観をグループで討議しました